

セラフ榎本

幼い頃から思い描いて来たペットとの共存を『愛犬家住宅』により具現化。人とペットが心地よく暮らせる環境を提案する。

昭和40年代、榎本さんがまだ幼い頃、外で飼われていた犬は「番犬」、少数ではあるが家の中で飼われていた犬は「座敷犬」と呼ばれていた時代でした。昭和から平成に時代

時代の移り変わりはペットの住環境にも変化をもたらす転機となった

気付いたわけです。創業当時、まだ幼い私にはニワトリやウズラ、モルモット、インコなどがいて、その世話は私がしていたため、愛情を持って動物に接する環境で育ちました。もちろん犬もいて、愛犬の柴犬のムツやシェパードの太郎のために犬小屋も自分で作りました。あの当時、犬は外で育てるのが当たり前、食餌も今とは違い、家で残ったごはんにみそ汁をかけて与えていた家も少なくなかったと思います。そんな環境から寿命も短いものでした。それに比べると今のペット事情は格段に変化し、食餌は子犬から成犬とそれぞれに合ったものが用意され、飼育は外から人が住む家の中へと移行、元来暑さ寒さに弱かった犬も温度設定が一年を通じて快適に過ごせるようになったので、その寿命も格段に伸びてきました」



▲取り扱いのある商品は本社ショールームにて実際に試すことが出来る

が移り行き、バブルとともに犬は室内で飼うことが当たり前になる、と同時に人間と犬と一緒に暮らすことが当たり前となります。「大学卒業後、入社したのは父が営む榎本塗装でした。いわゆる外のメシを体験しないまま実家に入ったわけですが、30歳の時に市議会議員に当選し三期連続10年の議員活動を経験しました。その後父が体調を崩し、それをきっかけに社長業を受け継ぐことになりました。同じ会社にいるとはいえ、今までの専務とはまったく違った業務に自分なりに苦労することも多々ありました。そんな時、幼い頃から心に秘めていた「ペットと共存する住まい」の実現に気持ちが動き始めました。

新しい事業展開は、社内でもすんなりと受け入れられるものなのか

「新しい事業展開は、会社が丸となり推進しています。創業は55年になる老舗の建設会社ですが、ペット専門のリフォームに参入したのはまだ日が浅いところがあります。全社員がベクトルを同じにして前に進んでいかなくてはなりません。この事業は社にとっては重要なプロジェクト、自分としては大規模修繕との2本柱構想として考えています。この愛犬家住宅は社にとって

お話を伺った人

株式会社 セラフ榎本
代表取締役社長
榎本修さん



マンションの大規模修繕からペットに優しい愛犬家住宅を手がける会社

埼玉県を中心に関東全域で大型マンションの大規模修繕を行っているセラフ榎本。『愛犬家住宅』と銘打った愛犬も暮らしやすい家作り、愛犬に配慮したリフォームを事業展開のひとつとして、昨年の春から新事業をスタートさせました。二代目社長の榎本修さんに、ペットと暮らす快適な家作りについてお話を伺いました。

「弊社は今年で創業55年となります。塗装業からスタートし、現在は総合的なリフォームを専門に



▲ペットの爪や、おもちゃによる傷がつきにくい畳

行っております。マンション全体に足場をかけて外壁の再塗装を行っている光景を目にする事もあるかと思いますが、あのような共有部分

の作業の他に、お客様個人からのオーダーで行うリフォームも手がけています。共有部分は修繕積立金から賄いますが、占有部(マンション内の個々のお宅)に関してはそれぞれ個人様が自ら修繕費を支払うわけです。どの部分をどのようにリフォームするか、事前打ち合わせを行い着手するわけですが、以前はそのお宅にペットがいても壁紙や床材などは人が快適に暮らせる事を念頭に作業を進めていました。ようにペットへの配慮はなかったという事です。しかし、それではいけない、わんちゃんと一緒に暮らしているのなら人と犬がお互いに暮らしやすくなるにはいけない、という事に

選ばれる仕事をするための3つの切り口
1 Business

大規模修繕業者が手がける、ペットに優しい『愛犬家住宅』
犬を家の中で飼うことが当たり前この時代ではあるが、犬にとって住みやすい環境が整えられているのだろうか。人に優しい「犬に優しい」を具現化した居住空間を目指す、セラフ榎本の『愛犬家住宅』ならばその家に合ったリフォーム方法で、ふたつの優しいを見事に両立してくれる。優しさの両立、今回はそんな話を聞いてみた。



セラフ榎本が全力で応援する

愛犬のためのリフォーム
家族みんなを幸せにします

55th Anniversary 株式会社セラフ榎本

